



2026年7月期第3四半期決算

補足説明資料

2026年6月10日

株式会社ファーマフーズ



【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

1. 2026年7月期第3四半期の業績

2. 連結業績予想と中期経営計画2026の進捗

2026年7月期第3四半期累計・連結決算概要

当初の計画通り、上期を積極投資期、下期を利益転換期として成長投資を行った。第3四半期業績における損失は通期予算に織り込まれており、通期で黒字転換の見込み。

(百万円)

	2025年7月期 第3四半期累計	2026年7月期 第3四半期累計	増減	
売上高	46,817	48,555	+1,738	+3.7%
売上総利益	37,726	39,196	+1,470	+3.9%
営業利益	▲217	▲1,430	-1,213	-
経常利益	▲231	▲1,545	-1,313	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,123	▲1,061	+62	-

資産・負債・資本、キャッシュ・フロー

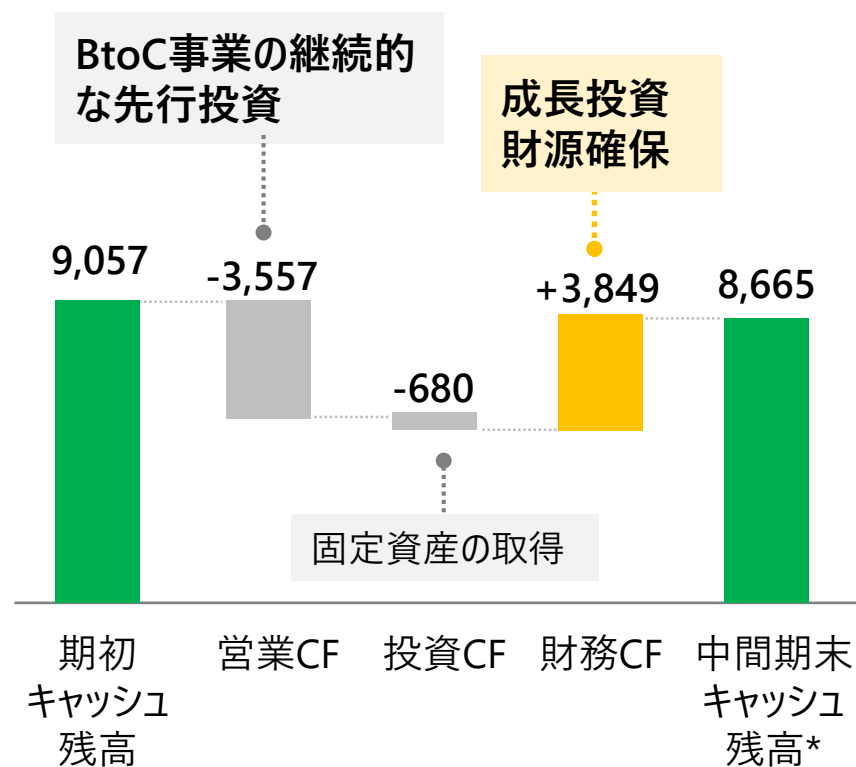
今期の事業計画に基づき、成長投資の財源を確保。有利子負債は前期末に比べて4,574百万円増加。通期での利益転換により、営業キャッシュフローは改善に向かう見通し。

(百万円)

	2025年7月末	2026年4月末	増減
資産合計	32,649	34,856	+2,145
流動資産	23,870	25,006	+1,135
有形固定資産	4,696	4,762	+66
その他	4,082	5,088	+1,005
負債合計	21,101	24,772	+3,670
流動負債	20,005	24,099	+4,093
固定負債	1,096	673	-423
株主資本合計	11,353	9,750	-1,603
自己資本	11,547	10,084	-1,463
自己資本比率	35.4%	28.9%	-6.5ポイント
有利子負債残高	12,661	17,235	+4,574
D/E レシオ	1.09	1.71	+0.62ポイント

中間連結キャッシュ・フロー

(百万円)



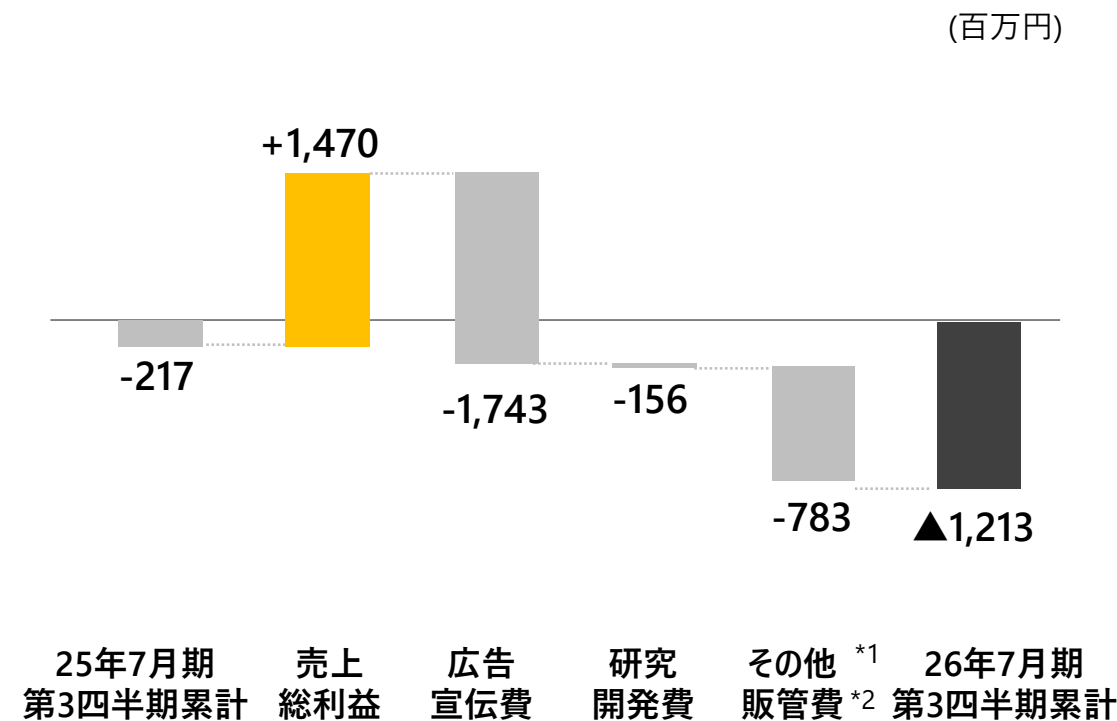
*現金及び現金同等物に係る換算差額を含む

セグメント別売上高・営業利益、営業利益の増減要因分析

「ニューモシリーズ」に続く収益柱の育成を目的とした成長投資を継続し、広告宣伝費が前年同期比で17億円増加。売上総利益は前年同期比で14億円増加しており、当社の強みである高付加価値な製品で高水準の粗利を確保。

売上高・営業利益 (百万円)		2025年7月期 第3四半期累計	2026年7月期 第3四半期累計	増減	
売上高	BtoB事業	5,834	5,560	-274	
	BtoC事業	40,728	42,734	+2,006	
	バイオメディカル事業	239	230	-9	
	その他	14	30	+16	
	合計	46,817	48,555	+1,738	+3.7%
営業利益	BtoB事業	882	858	-23	
	BtoC事業	591	▲342	-934	
	バイオメディカル事業	▲274	▲473	-199	
	その他 ^{*1}	▲5	▲14	-8	
	調整額 ^{*2}	▲1,411	▲1,458	-47	
	合計	▲217	▲1,430	-1,213	-

営業利益の増減額要因分析



*1：その他の区分には、報告セグメントに含まれない事業セグメント(ファンド運営事業、万博出展費用やNEDO補助事業費)を含んでおります

*2：調整額には全社費用(一般管理費等)、のれん償却額が含まれております

自社開発した機能性素材の採用拡大と自社NB製品の販路開拓に注力

CHC：ドラッグストア



卸売・直販

- ドラッグストアチェーン
- 越境ECなど

機能性素材



自社販売

- 大手飲料メーカー
- 大手食品メーカー
- デイリー食品メーカー
- サプリメントメーカー
- 海外商社など

CMO：医薬品製造受託

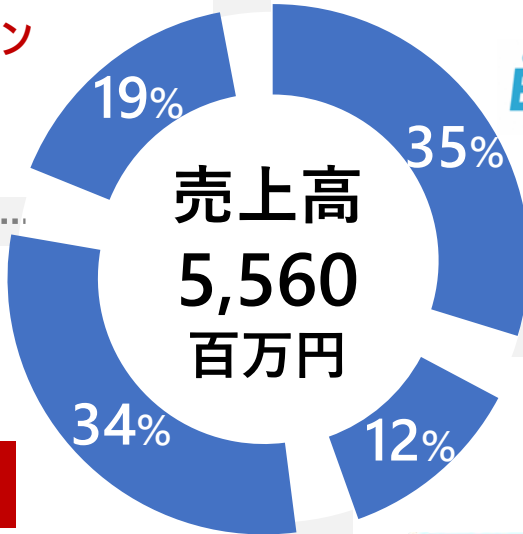


新工場竣工予定
(2028年7月 明治薬品)

受託製造

- 大手製薬メーカーなど
(利益性の高い自社製品の製造稼働率を高めていく)

売上高
5,560
百万円



機能性製品(自社NB製品)



卸売

- 伊藤忠商事
- 日本アクセスなど

BtoB事業売上高、売上増減要因

機能性製品とCHCは通販主力アイテムの配荷拡大がプラス要因。機能性素材は前年同期比2%減となったが、通期で持ち直す見通し。利益性の高い自社製品製造の稼働率を高め、計画的にCMOの事業規模を調整。

BtoB事業

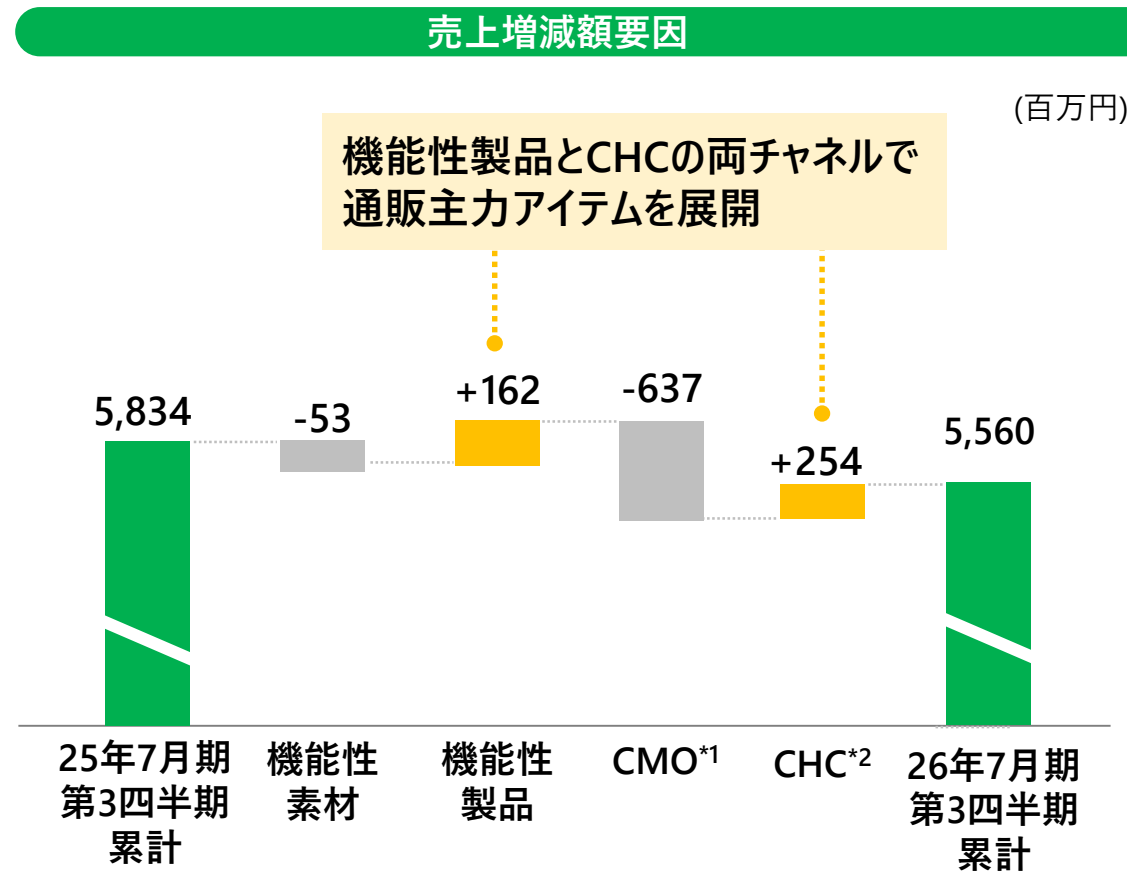
(百万円)

	2025年7月期 第3四半期累計		2026年7月期 第3四半期累計		
		比率		比率	増減率
機能性素材	1,998	34%	1,944	35%	-2%
機能性製品	505	9%	668	12%	+32%
CMO ^{*1}	2,542	44%	1,905	34%	-25%
CHC ^{*2}	787	13%	1,042	19%	+32%
合計	5,834	100%	5,560	100%	-4%

売上高

売上増減額要因

(百万円)



*1：医薬品製造受託事業(明治薬品)

*2：ドラッグストアでの医薬品販売及び機能性食品等の販売事業(明治薬品)

大手食品メーカーのロングセラーや大型飲料ブランドで機能性素材が採用



ロート製薬株式会社

成長期応援飲料「セノビック」
累計販売2,000万個突破の粉末飲料

江崎グリコ株式会社

メンタルバランスチョコレート「GABA」
流通全面配荷のロングセラー

日本コカ・コーラ株式会社

「綾鷹 濃いほうじ茶」
茶系飲料大型ブランド 4/6発売

カテゴリトップとなった通販製品の流通販売が進展

育毛剤ニューモは「コストコ専用ボトル」の出荷が伸長。LOFT店舗でまつ毛美容液「WMOA(ウモア)」や新製品のクリームシャンプー「KURUB(クーラブ)」が採用されるなど、自社通販の製品が小売店へ配荷され話題を集めた。



コストコ

「育毛剤ニューモ」
コストコ専用ボトルが好調



LOFT*

まつ毛美容液「WMOA」
専用ディスプレイ展開

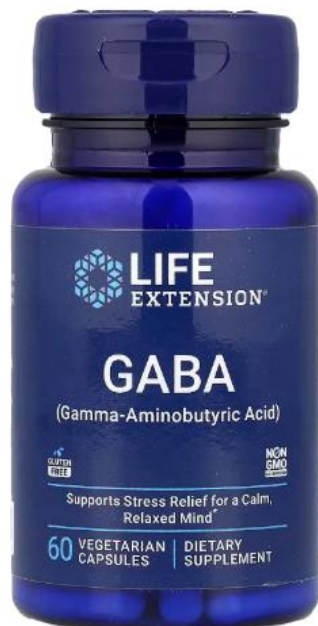
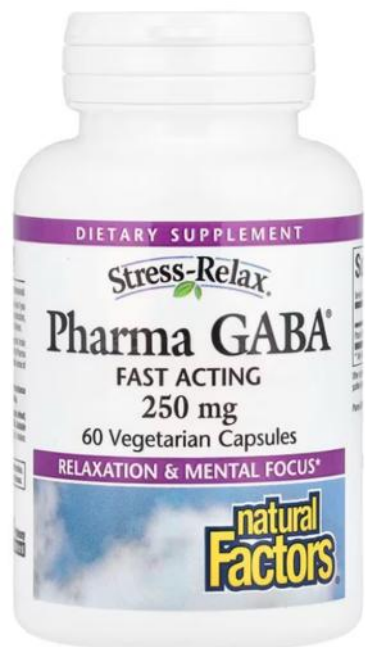


LOFT*

クリームシャンプー「KURUB」
毛髪研究で到達した新テクスチャー

海外でGABAの新規採用が拡大

国際的なストレスケア・睡眠市場の拡大トレンドにより、北米やタイでファーマギャバの需要が増加。米国のGRAS申請に向けた準備が整いつつあり、認証取得後には飲料・食品への急速な需要拡大が期待。



Natural Factors	Life Extension	Now	Youtheory	OSOTSPA
北米最大級のサプリメントメーカー	北米サプリメント大手	北米サプリメント大手	コラーゲンサプリメント 北米シェアNo.1	タイ最大の清涼飲料水メーカー

BtoC事業売上高、売上増減要因

売上高は前年同期比4.9%増。「ラクトロン錠(整腸)」に続き、「てんらい清流錠(耳鳴り)」や「てんらい黄望皇(夜間尿)」など、深い悩みに応じた医薬品が伸長し、医薬品・医薬部外品の売上高が前年同期比11%増となった。

BtoC事業

(百万円)

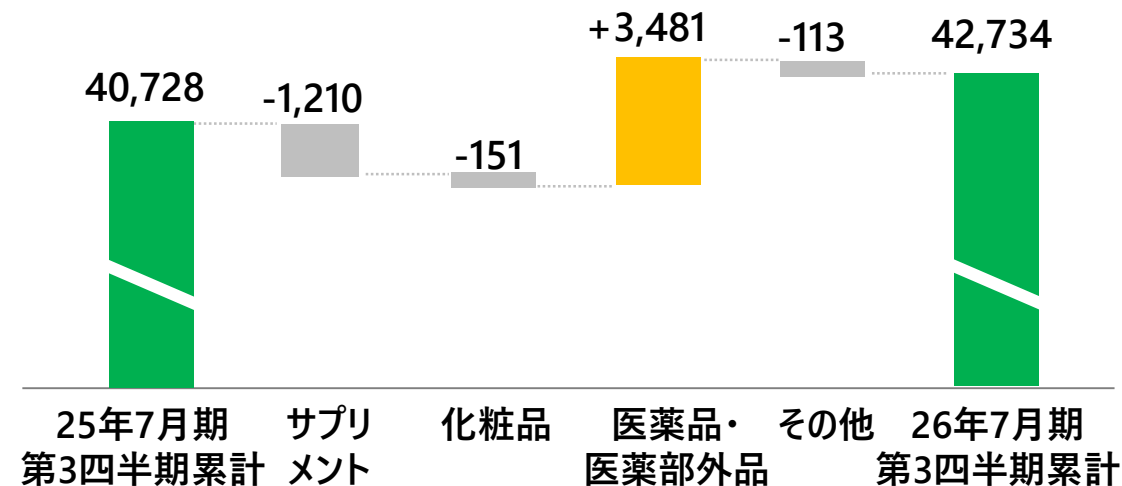
	2025年7月期 第3四半期累計		2026年7月期 第3四半期累計		
		比率		比率	増減率
サプリメント	5,419	13%	4,209	10%	-22%
化粧品	4,373	11%	4,222	10%	-3%
医薬品・ 医薬部外品	30,331	74%	33,812	79%	+11%
その他	603	2%	490	1%	-18%
合計	40,728	100%	42,734	100%	+4.9%

売上高

売上増減額要因

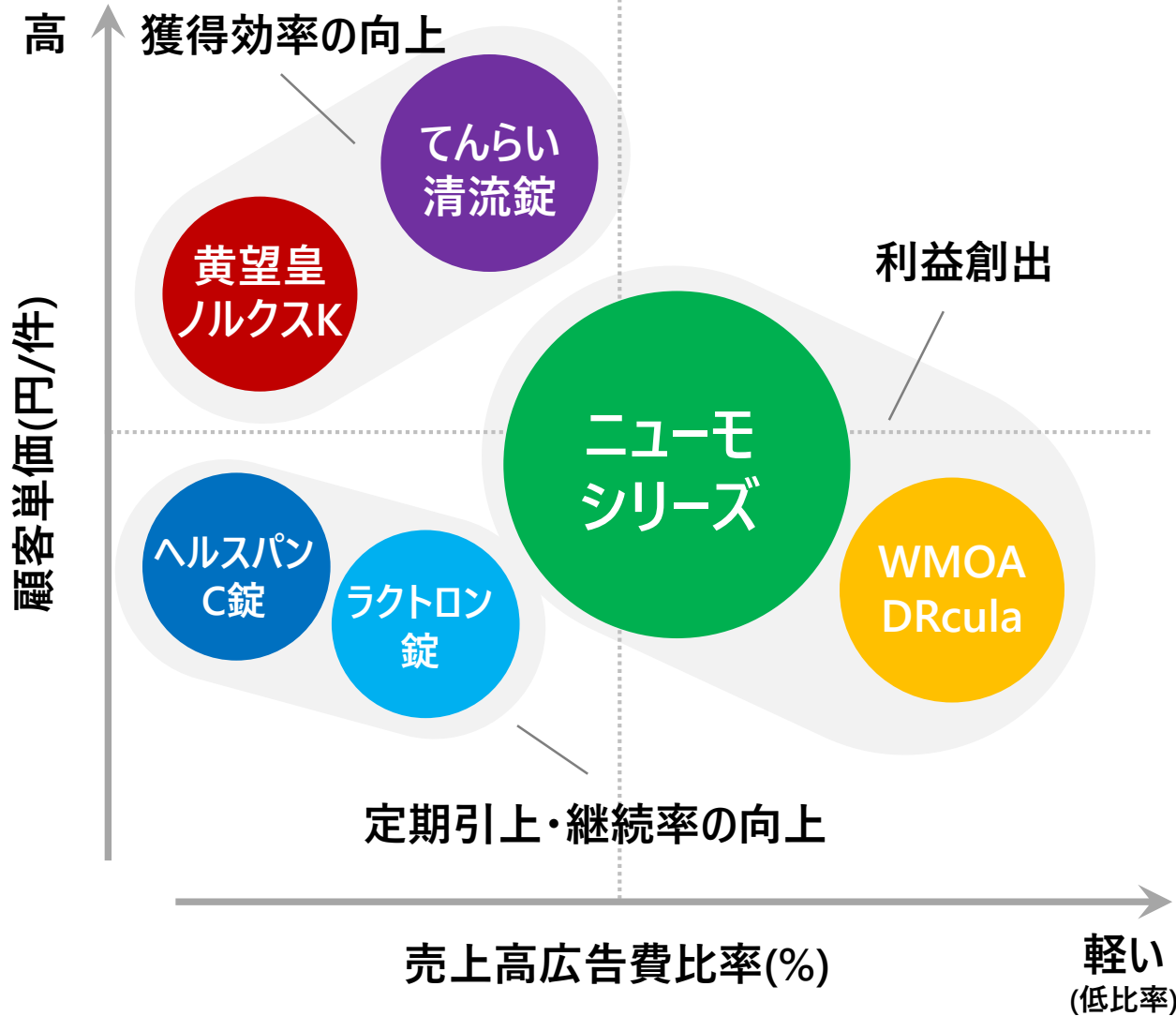
(百万円)

堅調なニューモシリーズに続き、整腸・耳鳴り・尿ケアなどの医薬品販売が戦略投資で続伸



カテゴリトップ製品と深い悩みに応じた医薬品の育成で収益性を高める

顧客単価・売上高広告費比率と改善課題



ロングセラー「タマゴサミン」に続き、顧客獲得が進む新製品(機能性表示食品)

タマゴサミン



届出番号：K134

ノウベルQi



届出番号：J1556

シボラナイト ダイエットコーヒー

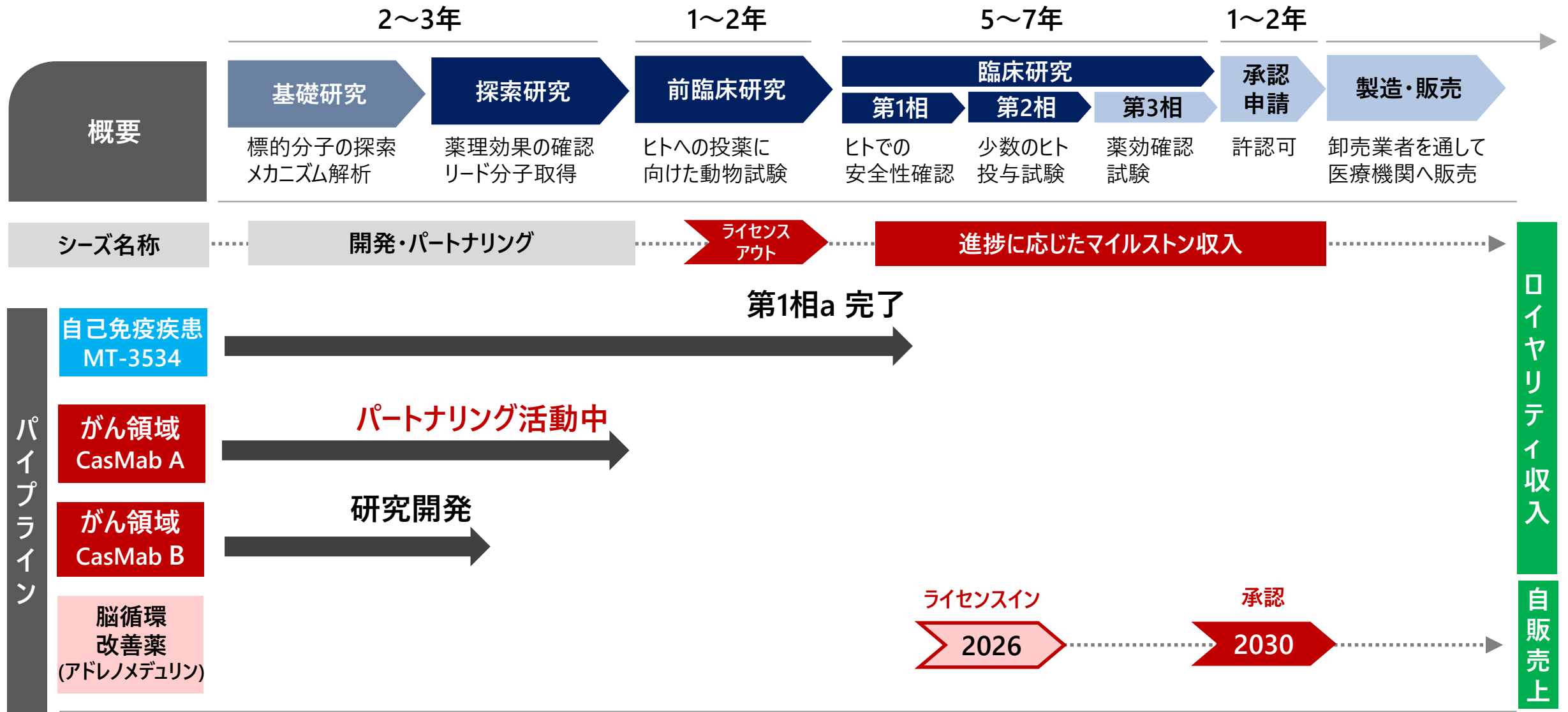


届出番号：J683



1日1杯の置き換えで
健康的な毎日をサポート
(粉末コーヒースティック)

バイオメディカル事業：研究開発パイプラインの展望※



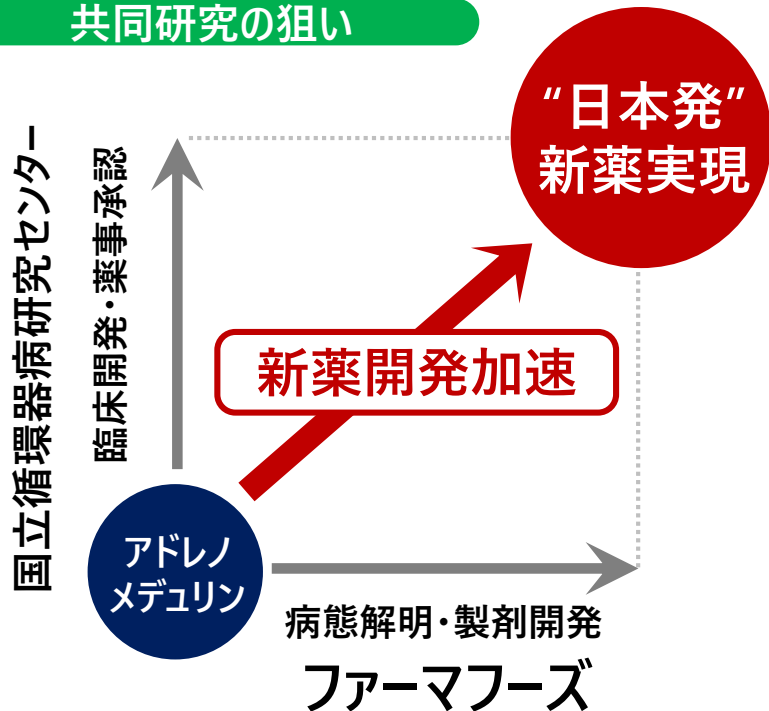
※今後の展望は当社が作成したものであり、パイプラインの進捗やライセンス契約、承認等を保証するものではありません

指定難病「カダシル」に対する治療薬「アドレノメデュリン」の開発

根本的な治療薬がない指定難病「CADASIL(カダシル)」に対して、早期承認を見据えた臨床開発を国立循環器病研究センターの研究チームと共同で進め、日本発の画期的な新薬の実現を目指す。



共同研究の狙い



国立循環器病研究センター
副院長 猪原 匡史 先生
脳神経内科部長

カダシル研究と治療における第一人者
「アドレノメデュリン」の臨床開発を主導



共同研究(AMED/AIMGAIN)において
「カダシル創薬研究部」の研究室を設立し、
カダシルの病態解明と新薬開発を推進

早期に承認を目指す
厚生労働省管轄の国立循環器病研究センターが
リードして承認申請に臨む

2025年2月12日付プレスリリース

1. 2026年7月期第3四半期の業績

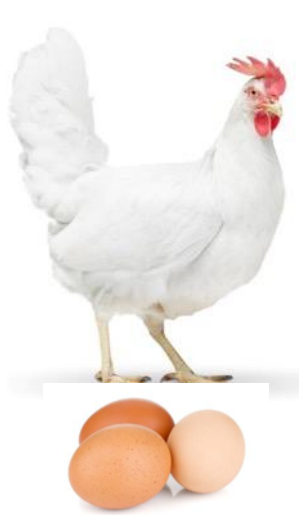
2. **連結業績予想と中期経営計画2026の進捗**

2026年7月期連結業績見通し

資本効率を重視して採算性を向上させ、利益面で当初予想を上回る見通しとなった。今後も新価値の創造と収益性の改善を両軸で取り組み、財務基盤を強固にしていく。

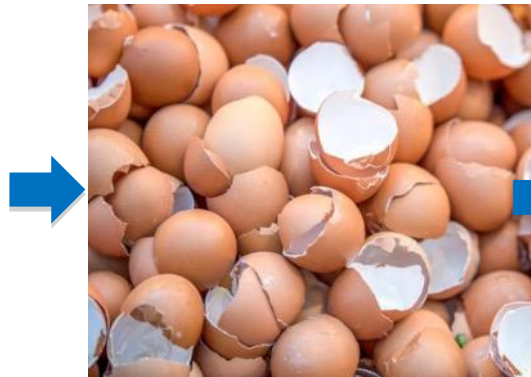
		(25年9月11日公表値)	(26年3月13日公表値)	(百万円)	
	25年7月期実績	26年7月期見通し	26年7月期見通し	増減	
売上高	65,260	68,000	67,000	+1,740	+2.7%
営業利益	2,367	1,500	2,000	-367	-15.5%
経常利益	2,553	1,500	2,000	-553	-21.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	368	1,000	1,500	+1,132	+307.6%
1株当たり当期純利益	12.83	34.64円	51.65円		
1株当たり配当金	25円	25円	25円		
配当性向	194.8%	72.2%	48.4%		

経産省NEDO「バイオものづくり革命推進事業」の取り組み



鶏卵263万t/年

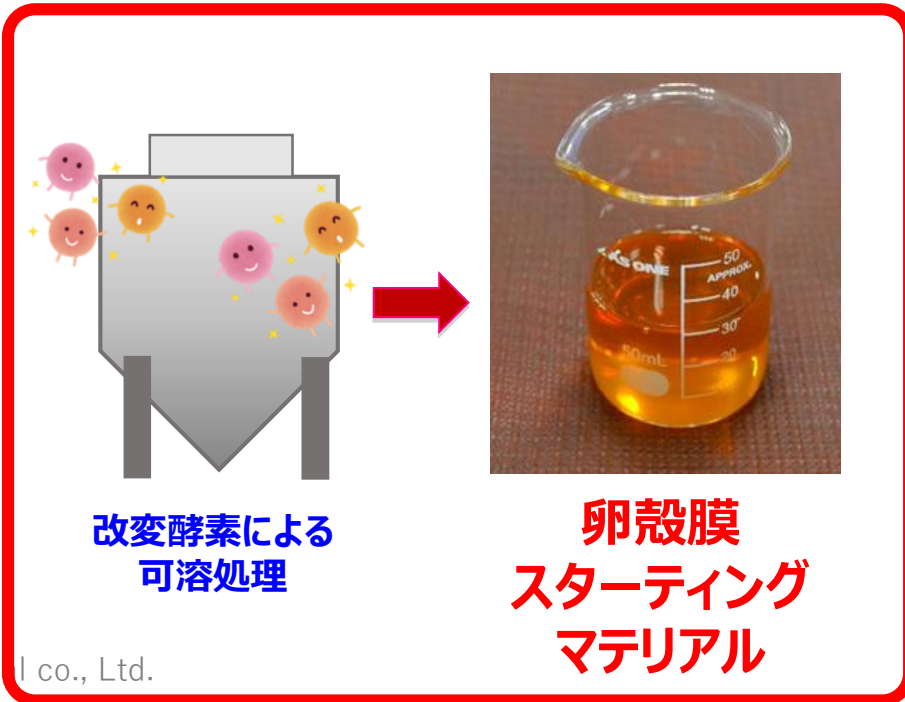
※日本国内の鶏卵の年間生産量



卵殻・卵殻膜
26万t/年



卵殻膜
1万t/年



卵殻膜-セルロース
ハイブリッド繊維



繊維



卵殻膜
ナノファイバー



電池材料



卵殻膜ペプチド



アグリ
バイオ
スティミュラント

「ovoveil」が世界最高水準の安全性認証において最高ランクを取得

「エコテックス®スタンダード100」は、繊維製品に厳格な規制値を設定している世界最高水準の安全認証。
「ovoveil」は乳幼児が口に入れても安全なレベルとされる、最も厳しい基準「製品クラスⅠ」を取得。

2026年6月5日付プレスリリース

Pharma Foods International Co., Ltd.
1-49 Misasagi Ohara, Nishikyo-ku, Kyoto-
city
JP-Kyoto, JAPAN



NISSENKEN QUALITY EVALUATION
CENTER
OEKO-TEX® LABORATORY
2-16-11 KURAMAE, TAITO-KU
111-0051 TOKYO, JAPAN

Certificate
OEKO-TEX® STANDARD 100

Pharma Foods International Co., Ltd.
is granted the OEKO-TEX® STANDARD 100 certification
and the right to use the trademark.



環境・安全意識の高いEUや
米国でのブランディングを強化
※国際的な営業活動が進展

「ovoveil」の国際的な認知拡大が進み、国内では原綿供給を開始

2026年5月14日付プレスリリース



LVMH MÉTIERS D'ART DU JAPON 特別企画展

フランス・パリで開催される、LVMH（モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン）**メティエ ダール**主催の特別展「WASHI ~ the art of crafting paper, when tradition unlocks innovation」に出展

2026年2月4日付プレスリリース

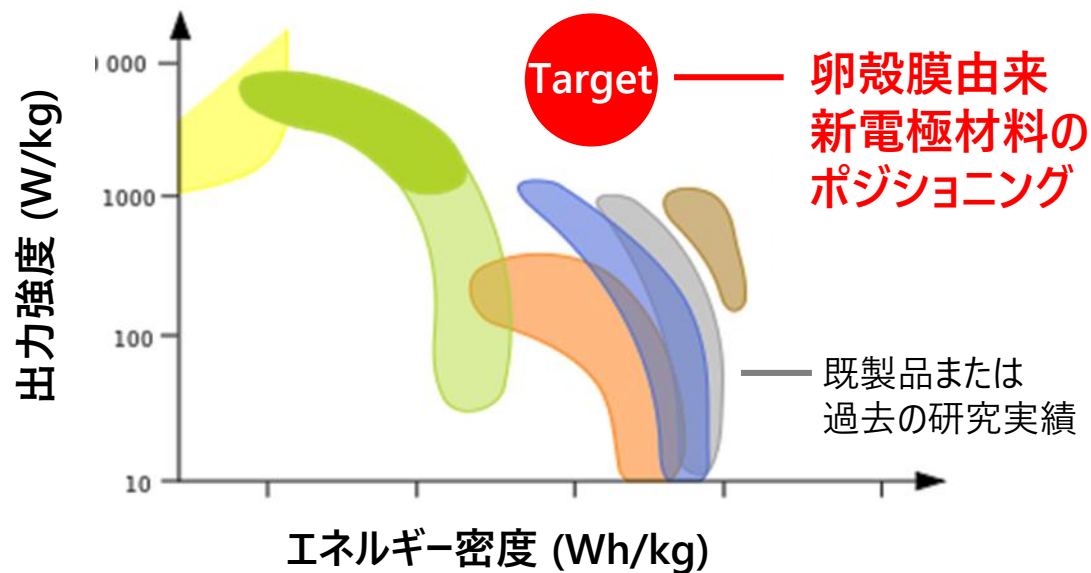


Première Vision Paris 27ss

世界最高峰の国際テキスタイル見本市(フランス・パリ)最先端の技術や素材を提供する企業が集まる「Smart Creation」エリアでの出展

卵殻膜からエネルギー密度と高出力を高次元で両立した新電極材を創成

電極材料における蓄電性能の概念図



信州大学共同記者発表

2025年11月20日付プレスリリース



日本農芸化学会セミナー

2026年3月16日付プレスリリース



定員400名の会場が満員となり活気があふれた

応用が期待される分野



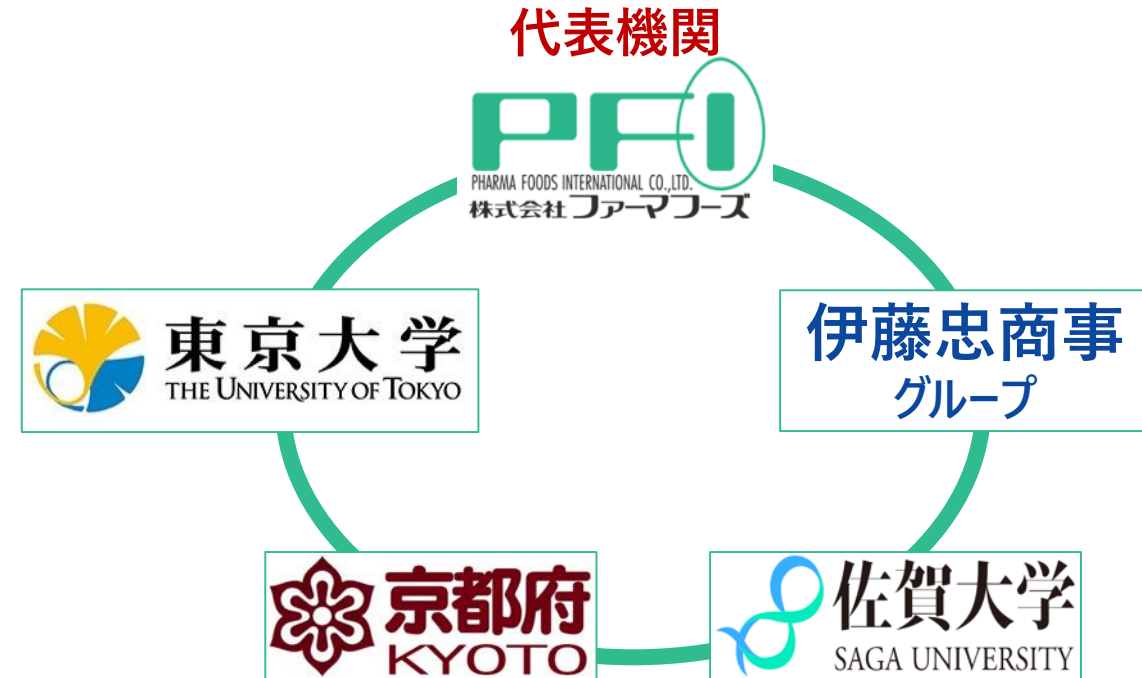
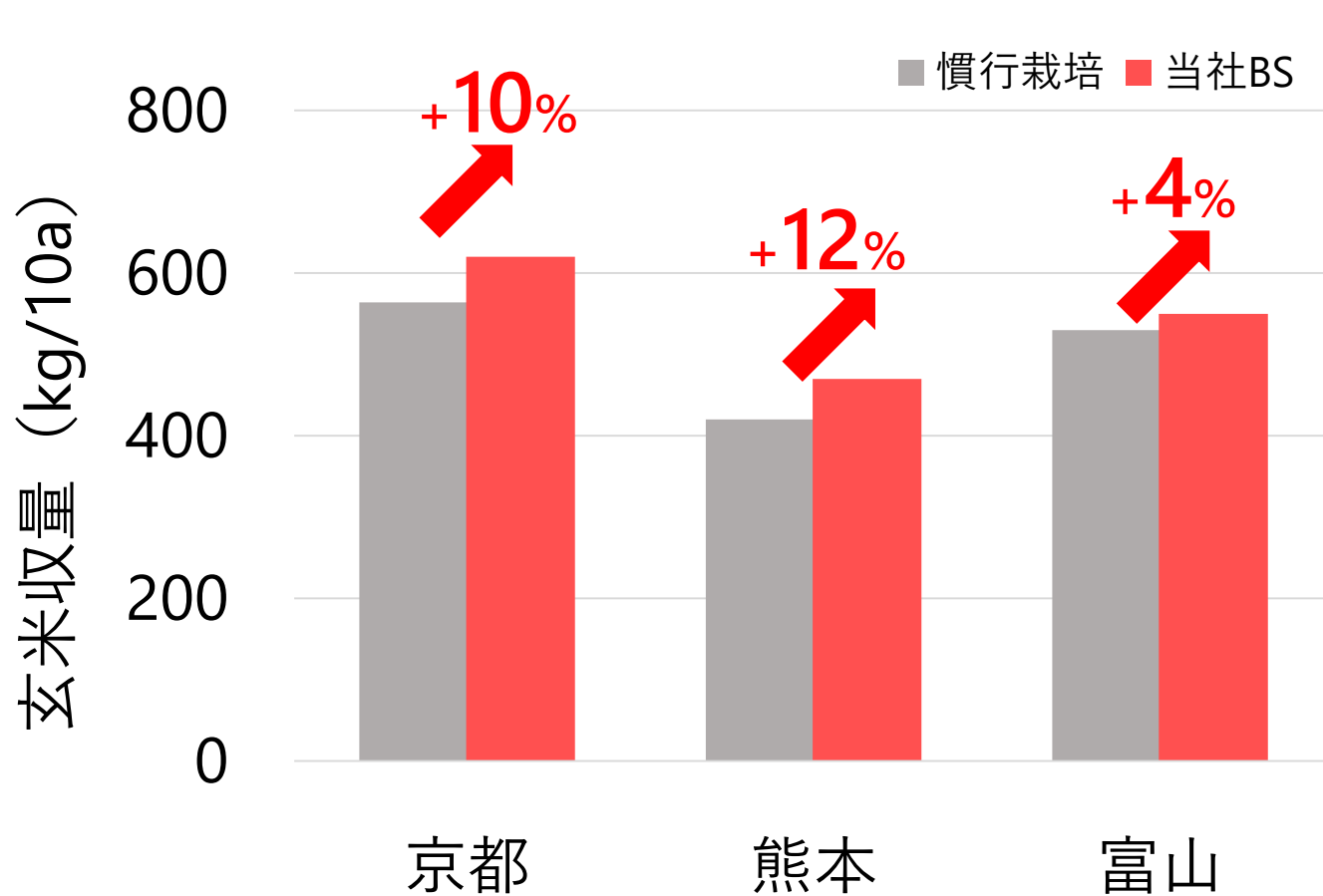
スマートデバイス産業

電圧負荷の高いハイテク産業

農水省「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」採択で事業化を加速

研究題目：気候変動に対して高品質な米作りを持続可能にする新たなBS製剤の構築と社会実装。

進捗：令和7年の水稲圃場において、当社バイオスティミュラントにより近畿、九州、北陸の収量・品質が向上。



京都府農林水産技術センターと佐賀大学が
本プロジェクトに新たに参画

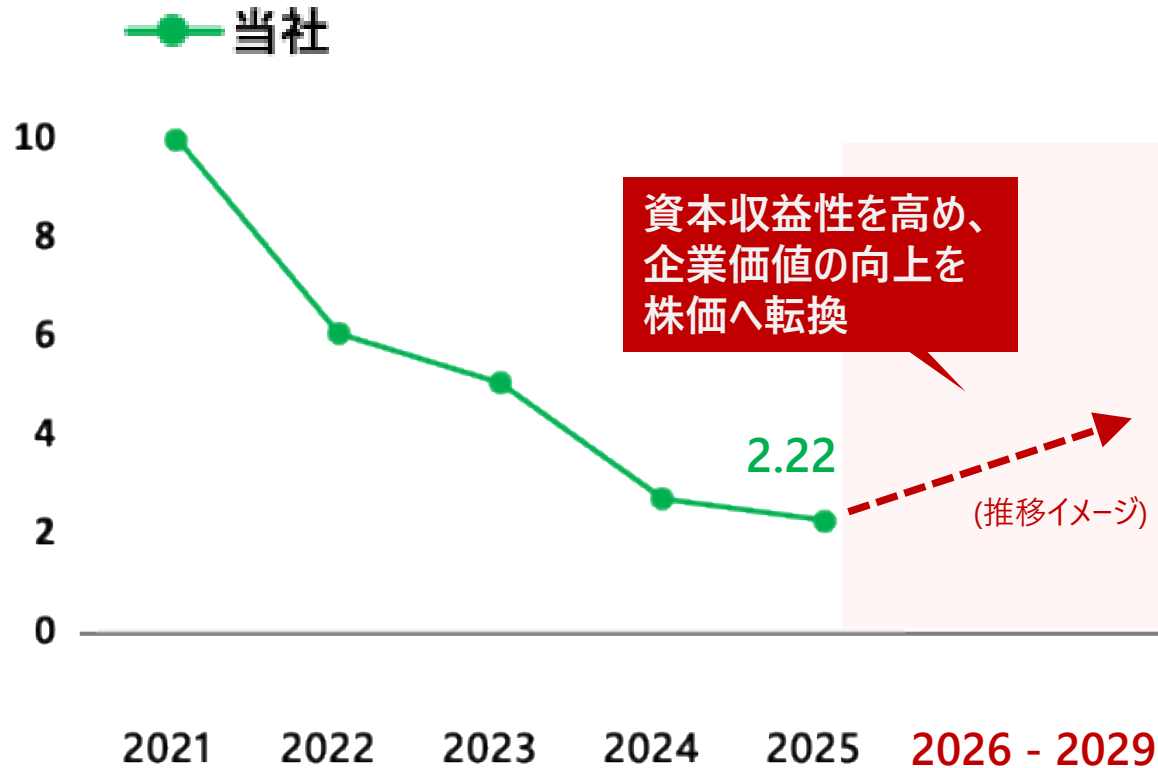
Appendix

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

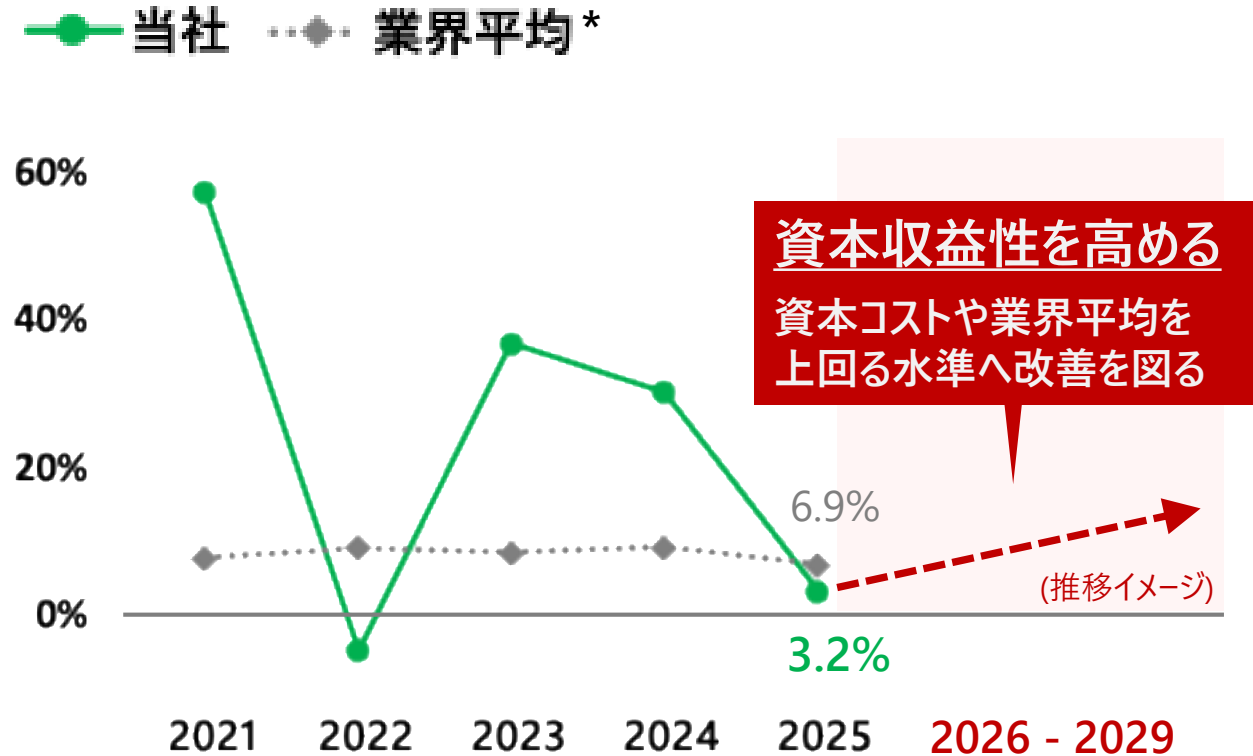
資本収益性や株価を意識した企業価値向上への取り組み

中期経営計画2026において、純利益が安定しなかったことを主因としてPBRが低下。このような背景のもと、**資本収益性や株価を意識したプロジェクト運営に注力**。新規事業の成長性と既存事業の利益性を高めながら、売上高1,000億円規模の企業を目指す。

PBR



ROE

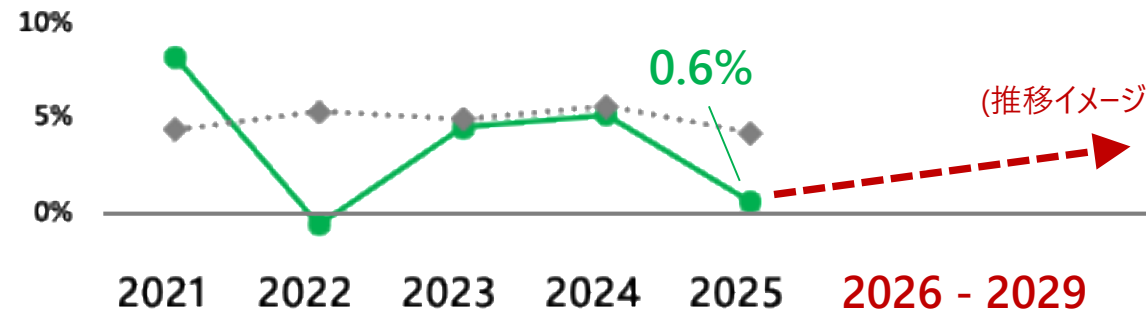


ROEの構成要素における資本収益性の改善施策

ROE

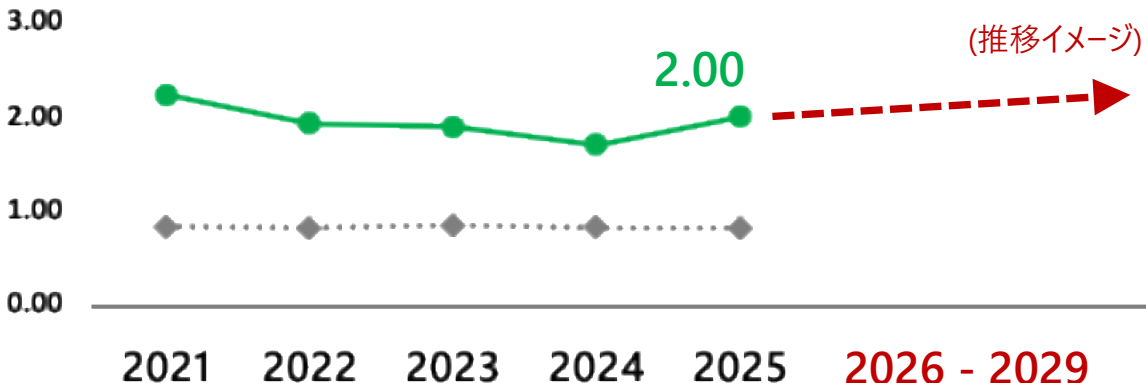
● 当社
 ●●● 業界平均*

当期純利益率



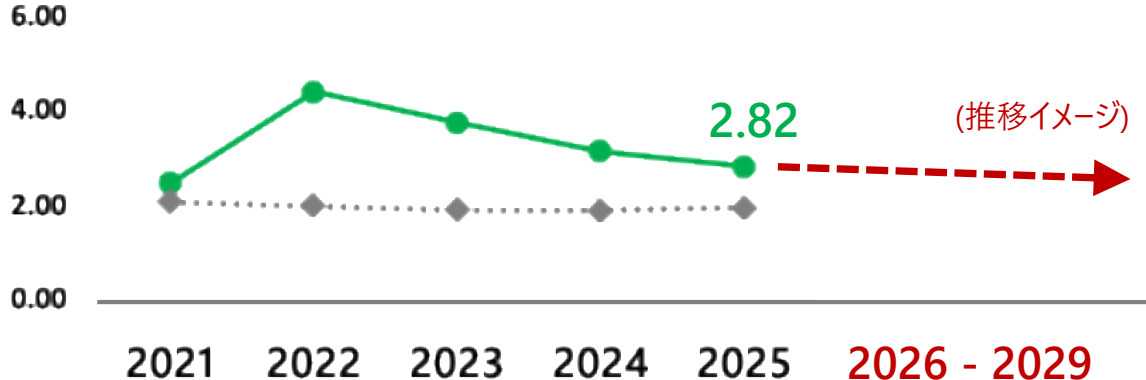
■ **収益性を高める**
 投資効率の改善と販管費の最適化で業界平均を上回る

総資産回転率



■ **生産性の維持・改善**
 業界平均よりも高い水準の資本効率を維持・改善する

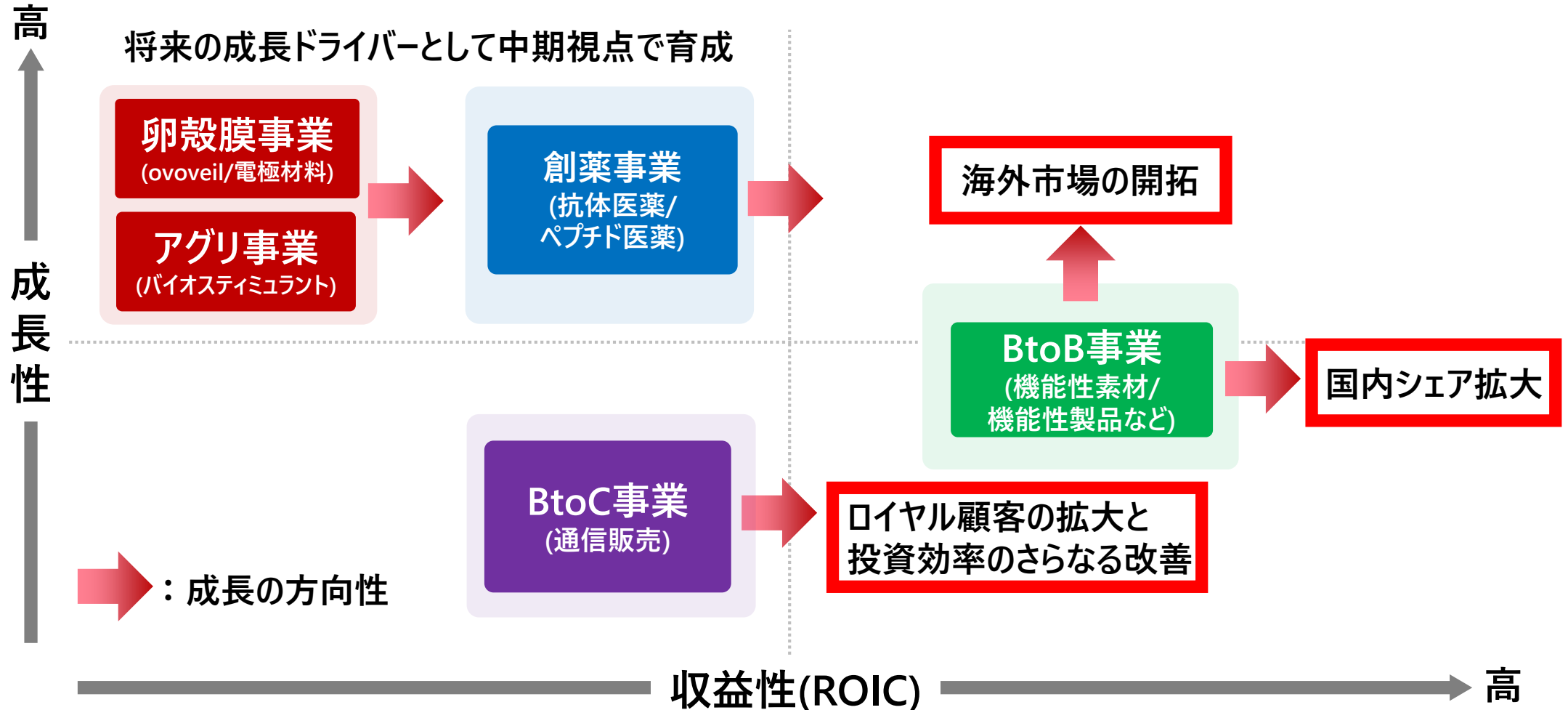
財務レバレッジ



■ **安定性を高める**
 自己資本に厚みをもたせ、財務レバレッジを最適化

事業成長ポートフォリオと新たな中期経営計画の見通し

企業価値向上に向けた事業ポートフォリオを明確化。資本効率の改善と財務基盤の強化を踏まえた新価値創造の成長プロセスと具体的な経営指標を、次期中期経営計計画(2027-2029)で打ち出す。





DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。